THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A.
THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21
KOFU21 Charterd 1990
山梨県甲府市中央５丁目４-１１
山梨ＹＭＣＡ青少年センター
〒400-0032　TEL 055-235-8543
FAX 055-235-8553

国際会長主題：ともに、光の中を歩もう	Henry Grindheim（ノルウェー）
アジア太平洋地域会長主題：ワイズ運動を尊重しよう	Tung Ming Hsiao（台 湾）
東日本区理事主題：広げよう　ワイズの仲間	栗本　次郎（熱 海）
あずさ部長主題：継続は力なり・一歩でも前に・そしてあがこう	大野　貞次（東京西）
甲府２１クラブ会長主題：実現可能な目標定め　山梨ＹＭＣＡを支援しよう	佐藤　重良

甲府21ワイズメンズクラブ
2018年6月会報
強調月間
評価

今月の聖句

思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです。

ペトロの手紙　一　５．７　駒田勝彦 選

会長挨拶

甲府２１ワイズメンズクラブ会長　佐藤重良

４月７日のベビーカーコンサートを実施した後の各方面からの反響の多いことと高い評価に驚いているところです。

これは先発実施の「みに北会」代表の矢崎武雄様のご指導と演奏者の皆様（前原加奈様他）はじめ、甲府２１クラブのＣＳ委員会及びクラブ員全員が力合わせて企画・準備・実施していただいたからと思います。

５月８日の例会には山梨県立考古博物館館長・萩原三雄様の甲府開府５００年の卓話をいただきました。

武田家は名門武将であった事、家臣２４人の武将のエピソード、川中島の合戦の場所が笛吹市石和町と思っている人が意外に多いことなど普段では聞けないお話をいただき、意義ある例会でした。

さて、山梨ＹＭＣＡの新館完成目標の日（２０２０年４月）まで２年を切りました。いよいよ本格的に動き出すことと思います。甲府２１クラブで協力できることをみんなで考え、お手伝いし、より良い後世に残る新会館にしたいものです。

【国際ＢＦ代表 ロビンソン氏 プロフィール】

Mr. Todd Robinson

Mrs. Karen Robinson

生年月日：１９６１年3月３０日
国籍：カナダ　ワイズメンズクラブ入会年：２０１１年
居住地：フレデリクトン市　宗教：Methodist　職業：高校教師

2018年6月特別例会プログラム

日時：２０１８年6月4日（月）１８：３０～

会場：岡島ローヤル会館
司会:廣瀬 健メン

【例会】18:30～18:45
①開会点鐘　佐藤重良会長
②ワイズソング・ワイズの信条
③今月の聖句　駒田勝彦メン
④会員一言　駒田勝彦メン
⑤会長挨拶　佐藤重良会長
⑥ゲスト・ビジター紹介　佐藤重良会長

【ワイズディナー兼歓迎会】18:45～20:30
①歓迎の辞
②国際ＢＦ代表スピーチ　Mr. Todd Robinson　Mrs. Karen Robinson
③乾杯　大野貞次あずさ部長
④会食・懇談・テーブルスピーチ
⑤日本の歌披露　杉田博子
⑥ハッピーバースデー
⑦ＹＭＣＡの歌
⑧閉会点鐘　佐藤重良会長

【打合せ】<甲府２１クラブメンバーのみ>
20:40～21:00
①活動に関する報告
②７月２日（火）キックオフ例会打合せ
　月別担当のことについて
③２０１８-２０１９年度事業の確認と決定
④その他

在籍者数	26名
第1例会出席者数	21名
第2例会出席者数	15名
メイキャップ他行事参加	12名
出席率	92%

項目	ニコニコボックス	バザー収益金	クリスマスオークション	BCコンサート募金	街頭募金ファンド	切手
目標値	250,000	50,000	50,000	50,000	50,000	5,000g
5月の計	22,657	—	73,225	20,000	—	1,060g
5月末までの合計	233,314	15,050	73,225	20,000	—	1,060g
達成率	93.30%	30.10%	146.50%	40.00%	—	21.00%

2018年5月例会報告

甲府２１ワイズメンズクラブ書記　寺田喜長

萩原三雄氏

甲府市が平成３１年に開府５００年の記念すべき年を迎えるにあたり、その生い立ちについて学ぼうと山梨県立考古博物館館長を勤めておられる萩原三雄氏に卓話をしていただきました。

「甲府開府と武田信玄生誕５００年」と題して、信虎の開府から武田三代の話をしていただきました。以下、萩原氏の卓話をまとめます。１５１９年、武田信虎は峡東地区より甲州府中に移転し甲府が誕生。その後５～６年で苦難の末、甲斐国を統一しました。開祖は信虎ですが、開府５００年と言えど、どちらかと言うと有名である信玄にスポットが当てられてしまうそうです。平成３３年の信玄生誕５００年こそ信玄の年です。武田家は甲斐源氏以来の貴種で公家の血を引く由緒ある名家です。その名の下に人が集まり国が繁栄しました。相川扇状地の扇頂部に館を構え南方に広大な城下建設を計画しました。

館は当初は方形単郭の構造、次第に広大な敷地を持つ館に展開、京の室町将軍の「花の御所」を模倣しています。公家文化を採用というわけです。城下には家臣団の配置、商人、職人の街区の設定、市、寺社の設置し城下を形成しました。１５４１年に信玄と重臣たちによる信虎追放が企てられ、信玄が当主となります。

信玄については有名な言い伝えが多々ありますが、その中で多くは作られた逸話です。「甲陽軍鑑」の中にもありますが、創作された信玄が有名なのです。「信玄の隠し湯」や「隠し金山」、「川中島の戦いにおける一騎打ち」などがそうです。信玄像も「絹本着色　武田晴信画像」と、甲府駅前にある信玄銅像と全く異なります。武田家臣団「二十四将図」は描かれた時代により武将が異なります。語り伝えられた信玄像が種種の信玄像を作り上げたのです。

一方、ポルトガル宣教師「ルイス・フロイス」の書簡には「部下より大いに尊敬を受く」とあるそうです。家臣への気遣い、心配りは噂でも伝えられています。

萩原氏のお話を聞き、普通に知っているつもりの信玄像が大分違うものであることを認識する機会でした。１６名のゲストをお迎えし、興味ある武田の歴史を学びました。

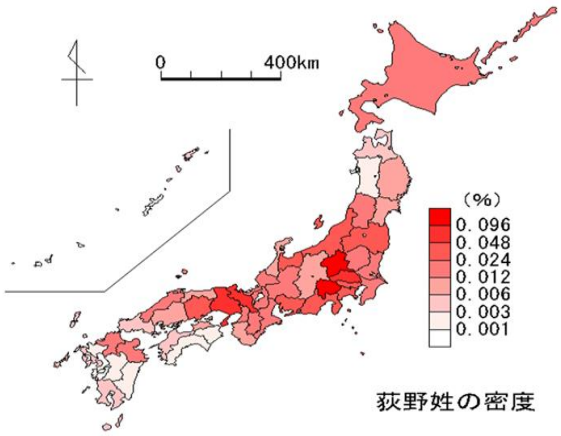
日時：２０１８年5月8日（火）　１９：００～
会場：山梨ＹＭＣＡ青少年センター
出席者：[メン]相川、饗場、赤根、荻野、小澤（公）、小澤（智）、鎌田、功刀、駒田、後藤、佐藤、清藤、茅野、寺田、野々垣、古屋、廣瀬、薬袋、山県、山本、米長
[メネット]相川、荻野、清藤、寺田、野々垣、廣瀬
[ゲスト]萩原三雄（卓話者）、作田あかね、小沢はるこ、飯田剛、斉藤洋子、藤原琢也、角田義唱ご夫妻、斉藤よし江、小澤建司、長田陽一、沼田三郎ご夫婦、大久保（五光電工）、後藤（五光電工）、露木魁斗【敬称略】

ルーツを追い続けて

甲府21ワイズメンズクラブ副会長　荻野　清

小生は、学生時代に自分自身のルーツに興味を持ち、当時の石和町役場へ行き戸籍謄本から、過去に遡ってみた。しかしながら、明治からの戸籍謄本のみで、しかたなく荻野家の菩提寺を訪ねてみたが、残念ながら戦時中にその寺は焼失し、過去帳が無いとわかり落胆、その後いったん休憩とした。

社会人になってから、神奈川県伊勢原市にある、「大山阿夫利神社」へ行く機会があった。その道中に厚木市上荻野、中荻野、下荻野という地名があることに気がついた。また、石和の我家近くに「阿夫利神社」があることから何か繋がりがと思い、またルーツという言葉が沸々沸いてきた。そこで、いまだに自身の明治以前のルーツは掴めないが、先ずは、歴史的に“荻野”姓に興味を持って調べていくことにしたが、怠慢で休憩してしまった。小生の４０歳代頃からインターネットが急激に普及し、様々な資料が容易に取り出せる時代になり、再度ルーツに挑戦（５０歳後半から）してみた。



荻野姓の密度

荻野姓は、関東圏と近畿圏の二流あるようである。全国で荻野姓は３６３番目に多い？名字で、関東圏では埼玉、東京、及び神奈川の順に、また、近畿圏では兵庫、大阪及び京都の順となっている。その次に愛知が多いようである。

まず関東圏である。江戸幕府のころの神奈川は、三つの藩が本領を置いていた。一つは小田原藩で北条家の本拠地だった所である。二つ目は、金沢文庫の地を本領としていた六浦藩で、そして三つめが荻野山中藩であり、現神奈川の相模国愛甲郡荻野に江戸時代の小田原藩の支藩として、小田原藩主の大久保忠朝が次男に領地を与えたところに始まったようだ。姓的に荻野は存在せず、姓名としてのものではなく地名の荻野村が発端のようである。

他方近畿圏では、この姓は桓武天皇の子孫で平の姓を賜った家系である平氏（桓武平氏）及び中臣鎌足が、天智天皇から賜ったことに始まる氏（藤原家）の藤原南家にも起源がみられる。

歴史的に“荻野”姓は平安時代に現れ、源頼朝が伊豆で旗揚げしたときに、頼朝討伐で荻野五郎俊重は、大庭景親氏と共に参戦したと、『吾妻鏡』に記されている。平氏一門が窺えるところである。これが近畿圏、丹波守護代の荻野氏であり、南北朝

期に最も華々しさを見せたが、戦国大名とはなり得なかったようだ。このことから、兵庫県の丹波地区が、荻野姓の発端があるように推測されるが、定かではない。

しかしながら、上述したように、源頼朝討伐で荻野五郎俊重が相模・伊豆地方に遠征している点に注目すると、何らかの縁が読み取れる。

日本ミュージアム・マネージメント学会に出席

甲府21ワイズメンズクラブ　小澤智之

日本ミュージアム・マネージメント学会から研究部会への出席と講師の依頼があったのは２０１７年の秋頃でした。自分が製作していたドキュメンタリー映画『特技監督 中野昭慶が語る特撮映画の世界』を１２月１０日に上映し、講義をしてほしいというものでした。なぜ特撮映画の監督のドキュメンタリーを製作したのかについては自分の生い立ちが影響しています。

小林一三

以前、私の母方の家系図を調べた時、阪急電鉄や宝塚歌劇、東宝などを作った実業家の 小林一三の姉・竹代の名前を見つけました。 大学時代に関西に住んでいた時にお世話になった親戚の堀内家の方々も阪急東宝グループの関係者でした。子どもの頃から東宝作品に親しんできたのに自分の家系に東宝創業者一族がいたことに興味を持ちませんでした。母は昔から私に話していたそうですが…。知って驚いたのはテレビ山梨に就職してから数年後でした。つくづく鈍感だと思います。それから映画の仕事に携りたいという考えが強まり、２００６年に堀内家を頼って株式会社東宝映画で製作部の契約社員として働くことになりました。

当時は右も左も分からず 毎日怒られていましたが、ゴジラシリーズのプロデューサーであり、当時の社長でもあった富山省吾さんら諸先輩方のお話がとても興味深く面白いのでそれを聞くだけでも褒美だと思い、働いていました。この頃、ゴジラシリーズは休止中でした。ドキュメンタリー映画の主役である中野昭慶監督は、当時東宝映画の助監督だった清水俊文さんに紹介していただきました。

中野監督は１９３５年、満州（現在の中国・丹東）生まれで日本大学芸術学部映画学科卒業。１９５９年に東宝株式会社へ入社しました。東宝の初代特技監督・円谷英二に見い出され、多くの東宝特撮作品で助監督として活躍しました。１９６９年には『クレージーの大爆発』の特殊技術でデビューし、『日本沈没』（１９７３）で東宝三代目特技監督に昇進しました。主な監督作は『連合艦隊』（１９８１）、『ゴジラ』（１９８４）、『竹取物語』（１９８７）などです。また日本万国博覧会（１９７０）や国際科学技術博覧会（１９８５）、うつくしま未来博（２００１）、東京ディズニーランドなど数々の博覧会やテーマパークの演出にも参加しておられます。

私は東宝映画を退社してからは、ロケーションコーディネーターの仕事をしながら、山梨で映画イベントの企画や運営に携っていました。富山さんと中野監督には東宝特撮映画をテーマにしたイベントに数回出ていただきました。中野監督のロングインタビューを映像で残そうと考えたのは、２０１３年の秋でした。山梨で国民文化祭の一環でサブカルチャーイベントのトークゲストでお呼びした中野監督と富山さんがお帰りになるので、私が運転する車で甲府駅まで送っていきました。

その車内で富山さんが、「中野監督の発言は貴重だから記録した方が良いよ」という内容の発言をしたのです。私はやるのなら映像だと考え、後日中野監督にお電話して、ビデオカメラによるインタビュー取材をさせていただけないかとお願いしました。

その時、中野監督は「早くしないと死んじゃうよ」と 冗談交じりに仰り、快諾していただきました。そこから全て動き出しました。インタビュアーには東京女子大学の高橋修准教授になっていただきました。高橋准教授は、学芸員課程が専門で、中野監督のファンということでしたので適任でした。２０１４年の１１月に東京女子大学で中野監督へインタビュー撮影を行い、その後は監督の話の中に出てくる場所を全国各地で撮影していきました。

インタビューの中で『連合艦隊』（１９８１）のお話が強く印象に残ったので、戦艦大和乗組員・本郷真二役の俳優・金田賢一さんと本編演出を担当した松林宗恵監督の次男の正暁さんにお願いしてインタビューをさせていただきました。戦争の悲劇を忘れてはいけないと思い、この部分にかなり時間を割いています。音楽もオリジナルでと決めたので、ピアニストの渡邊千春さんと音楽家でサクソフォン奏者の小池直也さんに発注し、様々な楽曲を提供していただきました。

構成協力は小説家の都築隆広さんに頼みました。都築さんは、青春ファンタジー小説「長者屋敷の寝られぬ座敷」が、２０１７年８月に佐々木喜善賞（遠野文化奨励賞） を受賞した勢いがある作家さんです。

ナレーションは古巣で一緒だったフリーアナウンサーの黒塚まやさんに頼みました。その他にも多くの方々の協力を得てやっと完成することができました。感謝いたします。

そして２０１７年１２月１０日に東京・乃村工藝社本社にて研究部会が開かれ、上映イベントとトークショーが行われました。会場には関係者や映画ファンなどおよそ１００名が集まり、学会の研究部会としては大盛況でした。

上映後に行われたトークショーでは、黒塚まやさんの司会により、中野監督と私との間で、また、会場の参加者も交えながらまさに抱腹絶倒のトークが繰り広げられました。そこで次に、中野監督の発言を中心としてその状況を紹介します。

中野監督には映像文化について縦横無尽に語っていただきました。紙幅の都合上、主要トピックに絞り込んでいます。

○『シン・ゴジラ』をどう見たか？

デジタル時代に相応しい映像として高く評価している。『ゴジラ』（１９８４）を演出した際は、ゴジラの体形のディテールを徹底的に描写することをテーマとして掲げたが、『シン・ゴジラ』の樋口真嗣特技監督はそれをよく継承・発展させている。ただ第２弾を製作する場合、どのような展開とするかは大きな課題である。息子を育てた親のような心境であり、だからこそ庵野秀明・樋口真嗣の両監督には命がけで頑張って欲しい。

（左から）黒塚まや氏、中野昭慶氏、筆者
2017 年 12 月 10 日＝東京・乃村工藝社本社

○自作を振り返って、また、次作の構想について

かつて黒澤明監督から「映画監督は、言い訳をしてはいけない。映像で語ったものが全て」と言われた。まさにそのとおりで「拘りと粘り」の姿勢で作り上げていかなければならないと思う。振り返ると自分の作品は６０点だが、もし次作製作の機会に恵まれるのであれば、７０～８０点の映画が出来るのではないか。

○テーマパークの企画・演出について

東京ディズニーランドをはじめとしたテーマパークや博覧会の企画・演出も手掛けてきた。ウォルト・ディズニーは映像作家であることから、彼が作り上げたディズニーランドには映画的な工夫が随所に見受けられる。特に「何が面白いのか？」「ホスピタリティとは何か？」という点が突き詰めて考えられ、ランド全体のグランドデザインにそれが反映されている。一例として、入口からシンデレラ城までのルートは、シンデレラ城が象徴的な存在となるよう、ルート周辺の建物や道路の配置が遠近法的に強調されるようデザインがなされている。これは特撮映画のミニチュアセットの飾りこみと同じ表現技法である。

エレクトリカルパレードの演出も担当したが、それは夜間滞在の面白さを追求した上で案出したものであり、それも「気持ちよく滞在できる空間」づくりの一環である。

○参加者からの質問

「東宝の名プロデューサー・田中友幸氏からの「無茶振り」で印象に残っている作品は？」

プロデューサーは無茶振りが仕事であるが、とりわけ厳しかったのは本多猪四郎監督作品『海底軍艦』（１９６３）の時である。正月映画として企画された『忠臣蔵』の役者スケジュールが合わなかったことから急きょ製作決定がなされた作品で、実際の撮影期間はわずか３週間しかなかった。円谷英二特技監督はプロ意識が強く、「絶対に出来ないは無い」という信念があったので、製作体制に工夫を凝らし、期日内に完成させることが出来た。「無茶振り」のおかげで困難な条件下での製作を余儀なくされ続けたが、反面、それがあったからこそ、多くの映画作品が生み出されたことも事実である。

○映像アーカイブとして作品を残す意味

近年のデジタル技術により、過去のフィルム作品を細部まで明瞭に鑑賞できるようになったのは素晴らしいことである。改めて映画製作の先輩達の「拘りと粘り」を画面上で確認できたことに感動した。もし自作の中でデジタルリマスター化が実現されるとしたら、『連合艦隊』を希望する。最後の戦艦大和轟沈シーンでは「鎮魂の花束」となるよう爆発の色に徹底的に拘って撮影したので、それがデジタル技術で鮮明に蘇れば８０点をつけたい。デジタル新時代を迎えた今こそ、映像界の先人達が努力して作り上げた「拘りと粘り」を歴史の中から丹念に解きほぐし、それを踏まえて後世にアーカイブとして伝えていくことが学会関係者・本会参加者の大きな役割・課題である。

※学会資料より一部再構成しました。

今後、私はこのドキュメンタリー映画を映画や映像関係のライブラリーに寄贈させていただいたり、若いクリエイター向けに上映していく活動ができればいいなと考えています。歴史を紐解き、未来に伝えようとする活動を続けていきたいと気づかせてくれた皆様に感謝しております。

YMCA便り　定期総会を終えて

山梨ＹＭＣＡ総主事　露木淳司

５０名もの出席者を得て、山梨ＹＭＣＡ定期総会が５月２６日に無事終了致しました。２０１７年度の事業報告と会計報告の中で、７０周年記念事業として立ち上げた放課後等児童デイが一年で軌道に乗ったこと、ぶどうの木が冬場を通じて一年中て利用者が定員いっぱいであったこと、わいわい地球塾に年間で延べ６００人が参加したことなどをお知らせしました。山梨ＹＭＣＡは今、英語学校、野外活動、学童保育、高齢者デイサービス、放課後等児童デイの５本の柱で支えられていますが、２年後の新会館移転の時に向けて、さらに６本目７本目と備えていけるよう準備をしています。総会では移転先が甲府市中央３丁目の市立中央保育所跡地に正式に決まったことも発表致しました。for all を目指す新会館では甲府市より国際交流事業も要請されています。外国籍市民や留学生、海外からの旅行者を対象にした新しい試みにチャレンジします。ぜひ皆様のお知恵とお力をお貸しください！会館建設に向けて、まもなく建設募金も始まります。皆様からのあたたかいご支援を心よりお待ち申し上げております。

■今後の予定

６月９日（土）　チャリティーラン（小瀬スポーツ公園）
６月１９日（火）第２例会　事業報告書・新事業計画提案
７月３日（火）　キックオフ例会（割烹石川）１８：３０～
７月１４日（土）あずさ評議会（代々木）
７月１８日（水）第２例会

【６月の誕生者】

【メン】野々垣健五（５日）寺田喜長（１３日）奈良田和也（１６日）山本敦夫（１８日）
【メネット】廣瀬まさみ（１１日）古屋律子（２６日）赤根教子（９日）